

滋賀県の地震

令和 7 年(2025 年)11 月

目 次

1 滋賀県の地震活動

(1)震央分布図	-----	1
(2)概況	-----	1
(3)断面図	-----	2
(4)滋賀県で震度1以上を観測した地震の表	-----	3
(5)滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	-----	3

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図	-----	4
(2)概況	-----	4

3 地震一口メモ

津波情報等に活用する観測地点の追加について

～「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）沿岸システム」の活用開始

----- 5

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。

「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。

本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142）」にお願いします。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。

また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/hikone/seismo/seismo.html>

本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。

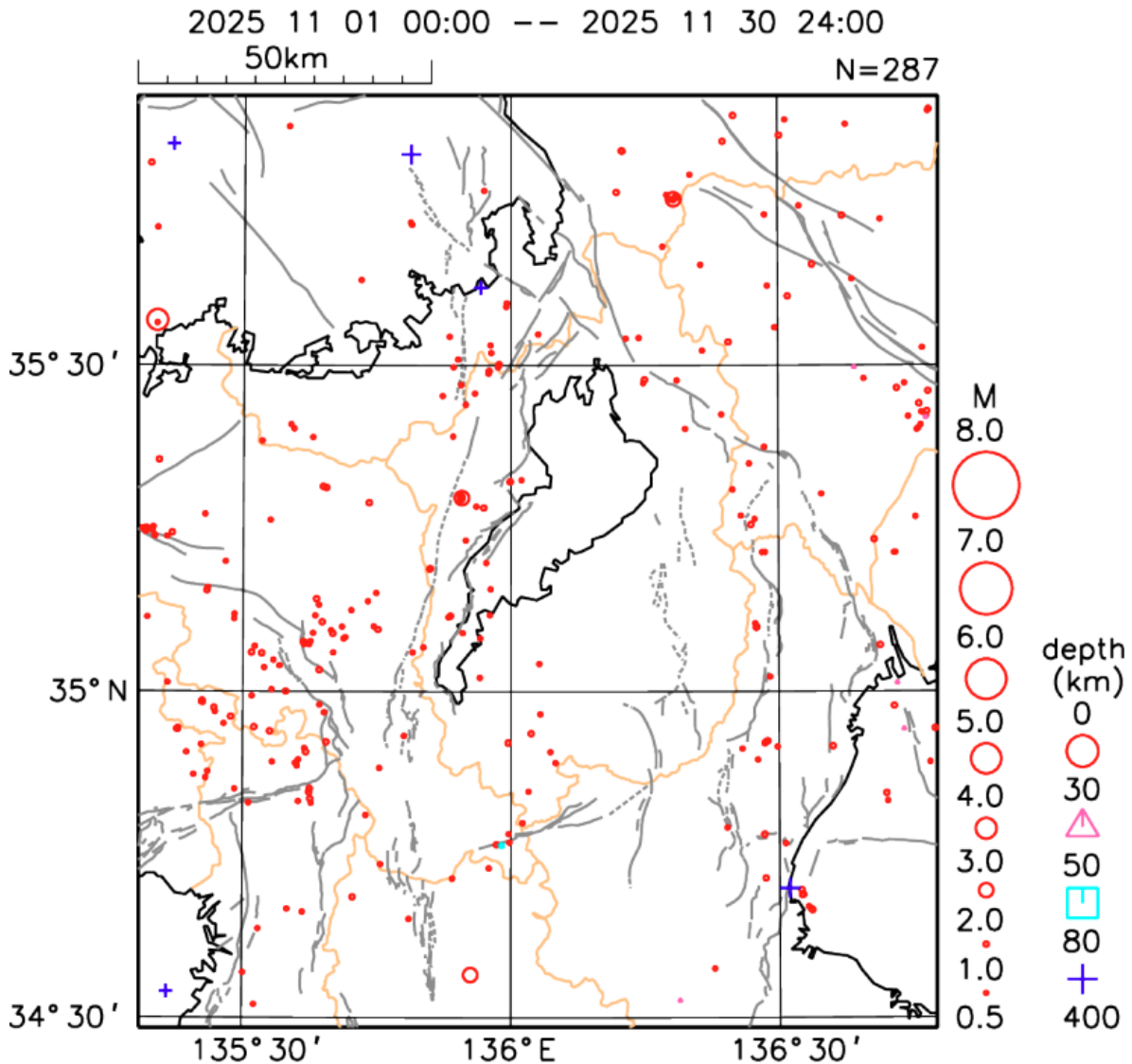
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震・津波・火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

彦根地方気象台

1 滋賀県の地震活動(令和 7 年 11 月)

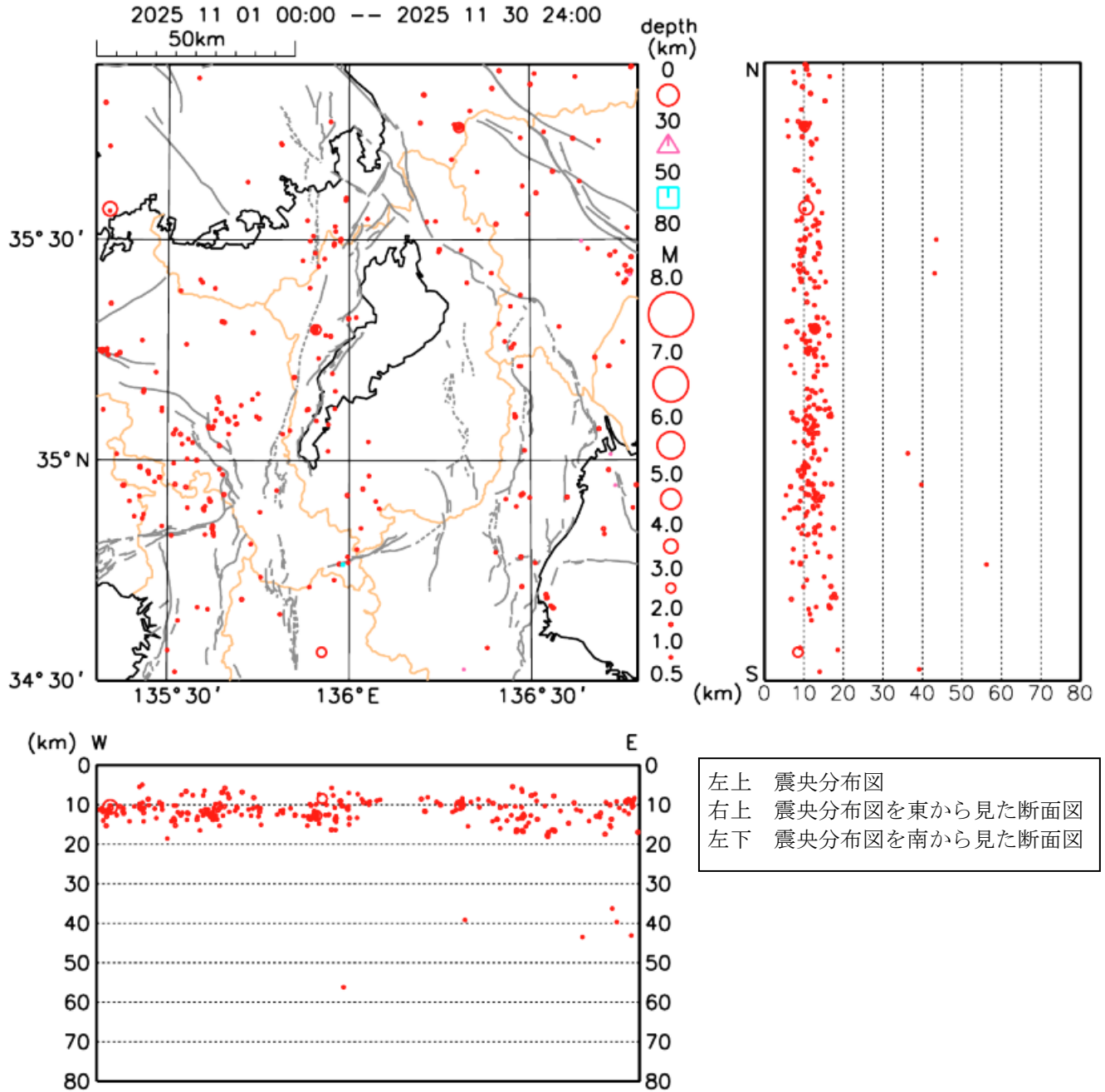
(1) 震央分布図



(2) 概況

11月に震央分布図の範囲内におけるM2.0以上の地震は9回(前月8回)でした。滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震はありませんでした(前月1回)。

(3) 断面図(深さ 80km までの地震)



【解説】

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は主として沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

(4) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の表

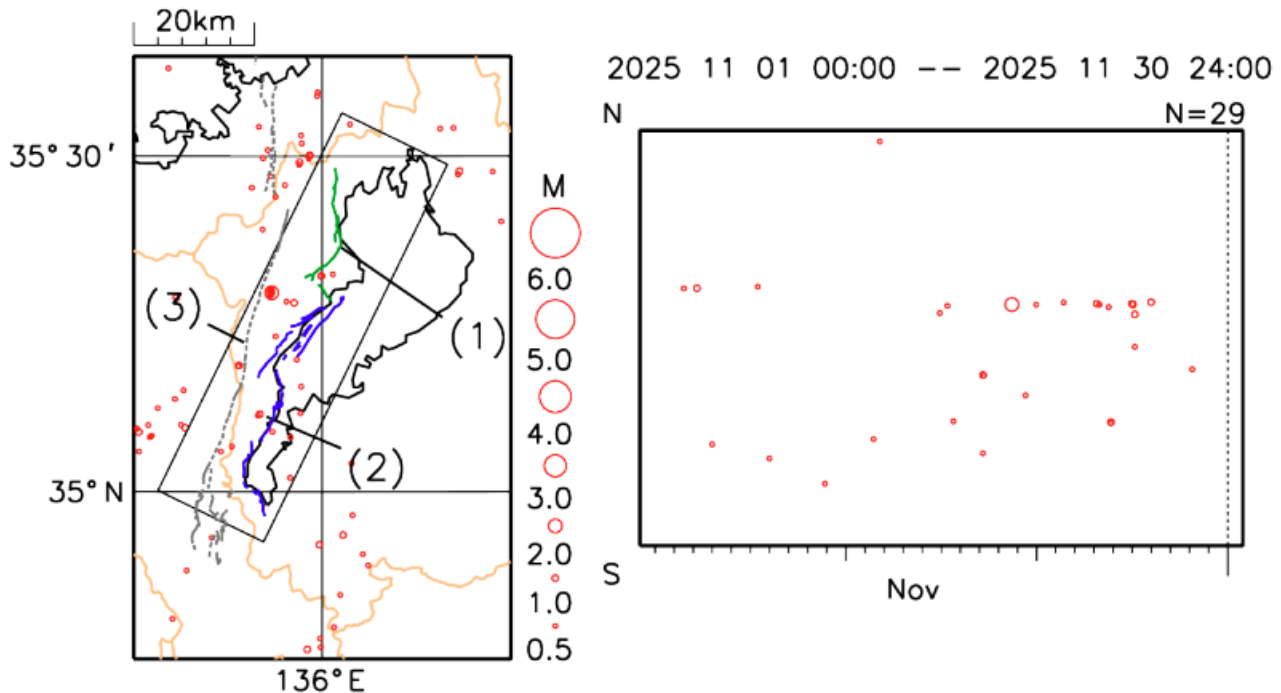
11月に滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震はありませんでした。

(5) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布

11月に滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震はありませんでした。

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動(令和7年11月)

(1) 震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図(深さ 30km までの地震)



(上) 震央分布図

深さ 30km 以浅の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。線種は活断層の存在の確実度(実線部>破線部)を表しています。

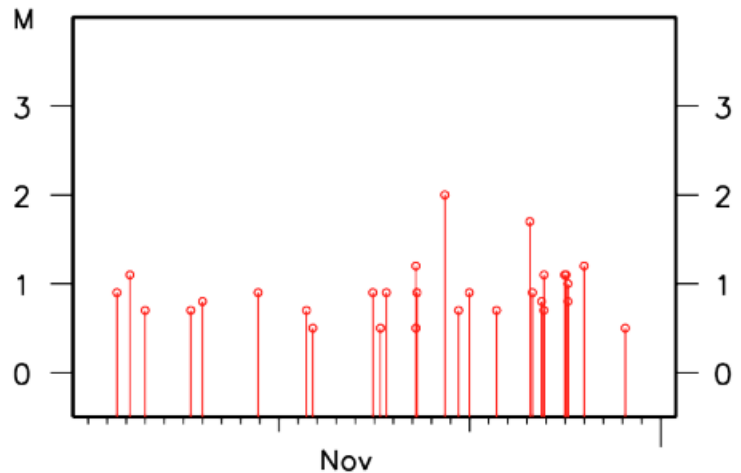
- (1) 琵琶湖西岸断層帯北部
- (2) 琵琶湖西岸断層帯南部
- (3) 三方・花折断層帯

(右上) 時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸(縦軸)に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

(右下) 地震活動経過図(規模別)

震央分布図の矩形領域内の地震について、縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。



琵琶湖西岸断層帯について

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市(旧マキノ町)から大津市国分付近に至る断層帯です。全体として長さは約 59km で、北北東-南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、断層帯北部と南部の2つの区間に分かれて活動すると推定されますが、全体が1つの区間として活動する可能性もあります。

断層帯北部では M7.1 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率は 1~3% と推定されます。

断層帯南部では M7.5 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率はほぼ 0% と推定されます。

(地震調査研究推進本部の長期評価(2009)による。ただし、地震発生確率の算定基準日は 2025 年 1 月 1 日。)

(2) 概況

11 月に震央分布図中の矩形領域内で観測された M2.0 以上の地震は 1 回(前月 0 回)で、同領域内の地震で震度 1 以上の揺れは観測されませんでした。

3 地震一口メモ

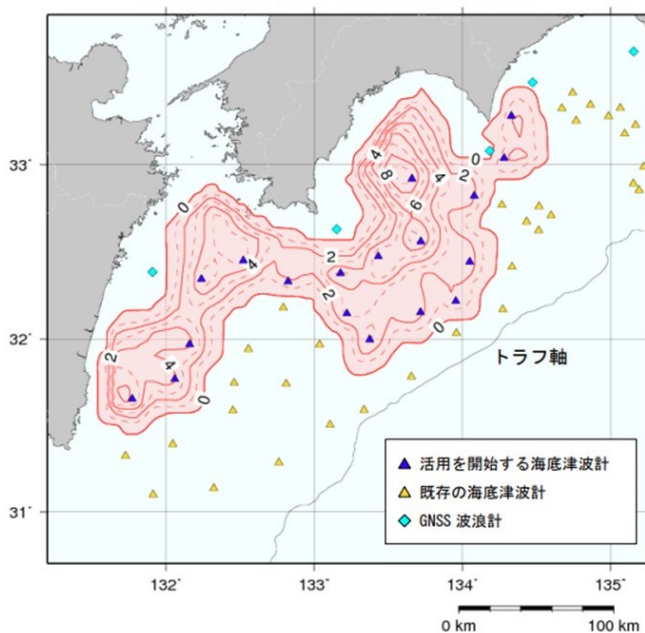
津波情報等に活用する観測地点の追加について ～「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）沿岸システム」の活用開始～

前回、国立研究開発法人防災科学技術研究所（以下、防災科研）が整備した「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net※）」のうち「沖合システム」（令和6年度整備完了）の海底地震計の観測データを緊急地震速報への活用を開始したことを紹介しましたが、「沿岸システム」（令和7年6月整備完了）においても海底津波計の観測データの品質確認等を行い、津波情報への活用する準備が整ったため、令和7年11月20日（木）12時から津波情報への活用を開始しました。これにより、四国沖から日向灘で発生した津波の検知が最大で約10分早くなり、津波情報等の発表の迅速化や精度向上が図られます。

海底津波計を設置するメリットとして

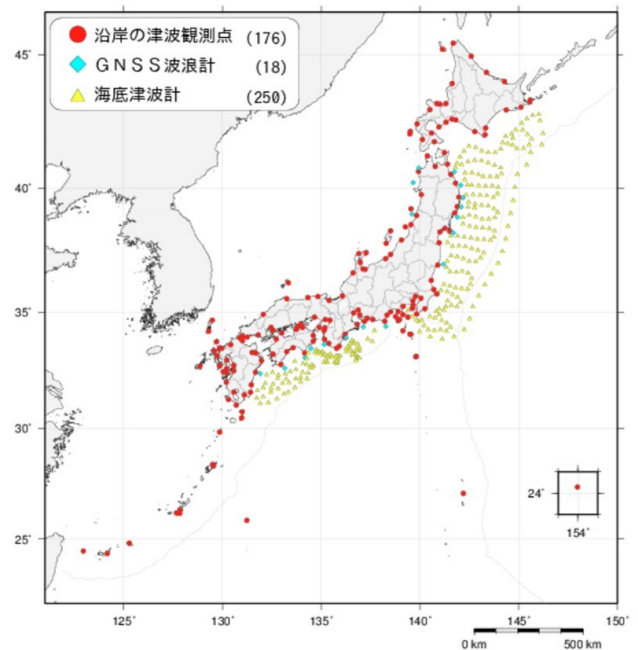
- 沿岸に到達する前に津波を観測できる
- 海底津波計の観測データから沿岸に到達する津波の高さを予測することができる
- 複数の津波計から津波波源を推定することにより精度良く津波の高さを推定できる
⇒ 津波警報等の更新に活用できる

※N-net: Nankai Trough Seafloor Observation Network for Earthquakes and Tsunamis



今回の観測点の追加による津波早期検知の効果

等値線は今回の観測点の追加によって津波検知がより早くなる時間（単位：分）。赤く塗った領域で発生した津波の検知が以前より早くなっている。



津波の観測値を発表する観測点

（令和7年11月20日以降）

気象庁HP 津波情報等に活用する観測地点の追加について

～「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）」沿岸システムの活用開始～

https://www.jma.go.jp/jma/press/2511/14b/20251114_N-net.html

防災科研HP 南海トラフ海底地震津波観測網：N-net

<https://www.seafloor.bosai.go.jp/N-net/>